

おりがみ

本校の1階の西側に、チャレンジルームが配されています。チャレンジルームとは、生徒の登校を支援する教室です。この教室の内外に数々の装飾が施され、生徒たちを



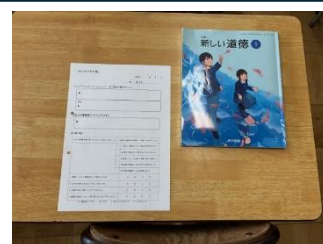
迎え入れてくれます。右上は入口付近の写真です。生徒が手作したちぎり絵で表現されています。教室に入ると、壁に棚に折り紙のオブジェが用意されています。ちいさな花の花弁も折り紙を丁寧に折り込んでいます。細部にわたる工夫が素敵です。担当教員や生徒が折った作品で彩られています。



2年 A 組はモラルジレンマにチャレンジです。

美術館での話。特別展の最終日は1時間早く閉館となります。その時刻となり、警備員が閉じようとする、閉館が1時間早いことを知らなかったカップルがやってきました。「前売券を購入しているので入館させてほしい」と懇願されるも「決まりである」と断りました。しばらくすると、おばあさんとその娘さんと思しき方がやってきました。その特別展の絵は、おばあさんとなくなった夫との思い出の絵であり、二人は「入館させてほしい」と申し出ます。警備員は悩んだ挙句にやはり決まりであると頭を下げます。その後、娘さんから、「母は、一時退院を許されました。しかし、すぐに病院に戻るようになります。おそらく、これが最後の一時退院であると・・・。」

あなたが警備員であったらどうしますか。



ルールを守るのか、思い出を大切にするのか、生徒は悩んでいました。議論に至るところまで見届けたのですが、残念ながら出張への出発時間となりました。生徒たちが悩み、そして議論していくことで道徳的心情や道徳的判断力を高めていきます。

チャレンジルームの話に戻ります。二人の担当教員のうち、一人は折り紙を苦手としていました。私より年上、大先輩。折り紙の経験などあまりなかったでしょう。それでも「生徒に教わりながら鶴を折った。」と桃色の折り鶴を見せてくださいました。「担当教員や生徒」と前述しましたが、さらに“生徒と共に”いいえ、“生徒が指導者となり教員に教えながら折った”作品です。素敵な関係が仕上げました。先輩曰く



「苦手なことがいっぱいあるから、たくさん教わることができるんだよ。」

この言葉に魂が震えました。年を重ねると、自分の弱点を認められず、自分のやり方を変えられず、などという場面を散見します。もちろん自分の中にも。先輩は違っていました。“苦手なことがある”とは“チャレンジへの権利がある”、その機会が“いっぱいある”のだと気づかせてくれたのです。

教育活動はチャレンジの連続です。特に前任校である三宅中での生活は、“初めて”へチャレンジの連続でした。初めての校長、初めての島暮らし、初めての・・・島で一つの中学校でしたから相談できる仲間の中学校校長はそばに存在せず。そんな時、三宅島在住の歴代の校長先生のお宅に伺う機会がありました。そして、私の三宅中学校の教育へ想いと初めての不安を話しました。すると、

「何もできませんが、私はここにいますから。」

魂が震えました。多くはないけれど、そぎ落とされたこの言葉に、赴任中は支えられました。

想いのこもった言葉は、時おり神が宿り、私に気付きを与え、背中を押してくれます。

数日前に、この方が御病氣のために旅立ちました。旅立つその朝も散歩をしてトレーニングしていたとお聞きしました。最後まで歩み続けたのです。

お別れに参りました。多くの言葉どころか、ひとつも言葉を掛けてくれません。しかし、それは研ぎ澄まし極限までそぎ落とした言葉で私に語ってくださっているのです。歩みを止めてはなりません。

いただいた数々の想いを織りなして参ります。

